

救命救急科/高度救命救急センターを受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	重症ICU患者に対する急性期栄養療法における間接熱量測定の有効な活用法
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	救命救急科/高度救命救急センター
研究責任者	准教授（特任） 苛原 隆之
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	<p>外傷や敗血症など高度な侵襲を受けた重症患者に対しては、手術を含む初期治療とそれに続く集中治療が重要ですが、経過中に栄養状態が悪化して転帰不良となる症例もしばしば経験します。したがって、それらを克服する適切な栄養管理が患者治療の屋台骨として重要といえます。実際、救急・集中治療領域における栄養管理のガイドラインがいくつも作成され臨床で実践されていますが、その詳細については未だ不明瞭な部分が多いのが現状です。特に根本的な投与エネルギー量の決定に関しても、間接熱量測定の使用が推奨されているものの、その有効性や使用方法に関しての知見が乏しく、未だ一般的には使用されていません。</p> <p>本研究では高度な侵襲を受けた重症ICU患者に対して行った間接熱量測定の結果を収集し、重症度および時期による栄養代謝動態の変化を調べます。また、得られたデータと診療情報、血液検査所見の解析から、急性期栄養療法における間接熱量測定の有効な活用法を見出すことを目的としています。</p>
対象となる患者さん	2019年8月から2024年3月までに愛知医科大学病院 EICU に外傷、敗血症、熱傷のいずれかの診断で入室し、3日間以上の人工呼吸管理と間接熱量測定を行った18歳以上の患者さん
研究の方法	人工呼吸器に代謝モニターを装着し、入室初日から3～7日間の間接熱量測定の結果を収集します。また、生理学的指標等の診療情報や、一般血液検査項目のうち栄養に関する指標や炎症に関する指標等を抽出し、間接熱量測定により得られたデータとの関係を調べます。

	なお、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧できます。 希望される場合は下記にご連絡ください。
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2024年3月31日
研究に用いる試料・ 情報	情報：間接熱量測定により得られたデータに加え、対象患者さんの年齢・性別・病名・身体所見・生理学的指標・治療内容等の診療情報を用います。
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 救命救急科/高度救命救急センター 担当者：准教授（特任） 苛原 隆之 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 35371）